

## 理系高校生へ「Open Lab.」発信

Open Lab. 発起人 鈴木 秀和（自然探究領域 4年）

2020年8月に第1回目の「広島大学総合科学部公式 Open Lab.」が実施されました。この企画は2019年7月に一人の教員と一人の学生によって創起され、その考えに賛同した多くの教員と学生によって、コロナ禍でオンライン対応に迫られるという未曾有の事態ながらも開催する運びとなりました。

Open Lab.とは、高校生が総合科学部の理系の研究室見学を行うというオープンキャンパスの一企画です。そしてこの企画を通して「学部生が普段見ることのない教員たちの研究を知り、それを高校生に紹介することで、『高校生に理系の学問は楽しい!』と気が付いてもらう」ことを目的として活動を行っています。また、Open Lab.によって「理系の学問を学ぶことで、どのような科学研究ができるのかを知る」ことで、高校で理系を選択した生徒に、より意欲的に深く理系の学問を学ぶ手助けをしたいと考えています。

2020年の第1回Open Lab.は、2020年8月の開催を前に2019年11月から準備が始められました。初めて行うイベントであったこと、学部という大きな組織の中で新たなことを興し、始めるのは並大抵のことではありません。多くの教員や学生、支援室の方々の協力のもと、対面での開催を想定し準備が行われました。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が日本でも流行し始め、本学のオープンキャンパスのオンライン開催が決まり、Open Lab.も急遽オンラインへと舵を切ることとなりました。初年度から様々な壁にぶつかりながらの開催となりましたが、およそ40人の高校生に参加していただきました。

そして2021年度も第2回Open Lab.を広島大学のオープンキャンパス期間に併せて開催しました。コロナ禍という

こともあり、2020年度に引き続き2021年度もオンラインでの開催となりましたが、100人を超える高校生や中学生にご参加いただきました。初年度の参加者数を大幅に超えることができ、多くの高校生や学校の先生にこのイベントを認知していただけていることを実感することができます。(写真1 2021年度Open Lab.運営メンバー)

また2021年度のOpen Lab.は総合科学部学生独自プロジェクトの一環として実施し、30万円の予算をオンライン対応の機材(カメラや配線など)に活用致しました。そのことも配信の画質や音質は、2020年度に比べ大幅に向上し、イベント終了後にとったアンケートからも配信の環境が良かったとの回答も見受けられました。それ以外にも、今年度はSNS(Twitter, Instagram)を用いた広報も取り入れ昨年度とは違った新たな視点での活動を行いました。実際に運用してみることでSNSの有効性や難しさなど、様々な点に気が付くことができ、大きな収穫となりました。

最後に2020年、2021年と2年連続で作成した、イベント広報用のチラシを紹介いたします。(写真2 左:2020年度、右:2021年度)そして2つのチラシ中に共通で描かれているものがあります。それは「虫眼鏡」です。この虫眼鏡には「自らが主体的に探し考えよう」というメッセージが込められています。今後もOpen Lab.は中高校生に科学の楽しさを伝え、探究心を抱かせるようなイベントを行っていきます。温かい目で見守っていただけますと、幸いです。最後になりますが、この企画に様々な面でご協力いただきました多くの先生方、ご登壇いただきました先生、支援室の方々に厚く御礼申し上げます。



写真1 2021年度Open Lab.運営メンバー



写真2 左:2020年度広報用チラシ 右:2021年度

## 「学部長からの御礼と近況報告」

総合科学部長・総合科学研究科長 関矢 寛史

総合科学部同窓会の皆様、いつも心からのご支援をいただき誠にありがとうございます。一昨年度開始した「ひろだいそうか基金」にも同窓会の皆様から大変多くのご寄附をいただき感謝申し上げます。この基金のコロナ禍での有効な使い方の一つとして語学能力試験受験料支援制度を立ち上げ、学生に対して募集を開始しました。現在、オンライン留学を除いて実際に海外に留学できている学生は数少ないですが、来年度以降はオンラインと現地留学を合わせて、その数が増えることが予想されます。今は留学に備えて語学力を高め、留学先の大学から要求される語学試験の基準をクリアするためにしっかりと準備する期間にしてほしいと思っています。そこで、多様な外国語能力試験の受験料の半額を支援することに対して、同窓会からいただいた基金を使わせていただくことにしました。学生たちには一生懸命に外国語を勉強し、留学に挑戦してほしいと思っています。

感染者数も減った10月からは対面授業を基本として後期が始まり、キャンパスにも活気が戻ってきました。しかし、飲食店などの営業が長らく制限されてきたこともあり、アルバイト収入が減っている学生もいます。そのような中、前延同窓会長におかれましては、昨年度に引き続き今年度に入ってからも、お米をたくさん寄附してくださいました。いただいたお米は、JASSO（旧日本育英会）奨学金の受給学生を中心に、経済的に恵まれない学生63名（留学生含む）に配布させていただきました。前延会長におかれましては、今年4月から東広島市副市長という重責を担われご多忙であるにも関わらず、学生たちのことを親身に考えてくださり心から感謝申し上げます。学生たちにとっては心の支えになると同時に、計り知れない教育効果を持つと信じております。

コロナ禍になってから入学してきた学生たちは、これまでオンライン授業が多く、仲間作りが難しい状況が続いてきました。そんな中、2年生の有志が中心となって、7月には2年生の交流会と1年生の交流会を開催してくれました。小グループに分かれてキャンパス内を散策する活動を通して、参加した学生たちにとっては仲間を作るよい機会になりました。この秋からも学生や教員が複数の学生交流会を企画しています。人に会いたくても会えない状態が続いていた学生たちにとっては、人との触れ合いを渴望する気持ちが例年以上に強いと思いますので、これから素晴らしい仲間を作ってほしいと思っています。

ところで広島大学では昨年度から研究科が再編され、総合科学部の教員は3つの研究科に配属されました。11あった研究科がこれら3つに医系科学研究科を加えた4つに再編され、総合科学研究科の理念であった学際性を全学で目指すことになったわけです。それを機に、総合科学部の教員が指導する学生を巻き込んで行う総合科学推進プロジェクトの成果を、1年生が必修の「総合科学へのいざない」で総合科学の具体例として紹介しています。また、大学院生や学部生が申請できる「学生独自プロジェクト」も始まり、学部1年生から大学院生までが、多様な学際的な活動を開始し、今年度のホームカミングデーではその途中経過を紹介しました。今後、総合科学部同窓会の皆様からさらなるご支援がいただければ、学生たちのそのような活動の支援も増やしていきたいと考えています。同窓会の皆様におかれましては、これまで多くのご支援をいただいておりますが、ひろだいそうか基金でのさらなるご支援をいただければ幸いに存じます。どうぞよろしく願いいたします。

## 「国際共創学科 IGSからの御礼と近況報告」

国際共創学科長 フンク・カロリン

総合科学部同窓会の皆様、いつも心からのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

ご存じのように、2018年に、総合科学部は一学部一学科の体制を初めて変更し、英語で受ける授業だけで完結できる国際共創学科（Integrated Global Studies=IGS）が立ち上がりました。私はその当時、総合科学部の教員として丁度20年間務めてきた時で、学科長を担当する機会

を与えていただき、大変うれしく思いました。外国人教員が多く、留学に行く学生も他学部比べて多い総合科学部ですが、さらに国際色が強くなり、いずれ、全学のグローバル・キャンパスの手本になることを期待しています。IGSは創立当時から総合科学科や他部局の教員の協力、留学生の奨学金、日本人学生の留学支援、国際広報活動のサポート、インターンシップ先の開拓など、様々



な形で全学の協力を得ながら、連携して運営しています。また、新学科の立ち上げに当たって、全く新しい取り組みに共に挑戦してきたIGS教員と事務スタッフに、この場を借りて改めて感謝したいと思います。

IGSは定員40人という小さな学科ですが、その中でも、多様な学生が集まっています。最初は単純に「日本人」と「留学生」に分けて考えていましたが、実際には、日本で生まれた外国籍学生、人生の半分以上を外国で過ごしてきた日本人学生、二重国籍の学生など、様々な背景の学生と一緒に学んでいます。当然、言語能力も様々で、流暢な日本語はしゃべるが読み書きはできない学生、英語の解読力は高いが発言に慣れていない学生などが同じ授業に出ています。ちなみに、IGSで開講する授業はすべて英語ですが、日本語で開講される科目も受けることが可能です。学生達は学際的な学び方に欠かせない、自分の関心に合った独自のカリキュラムをチューターの教員と相談しながら設定します。その中に、理系の科目も必ず含まれています。1年生の後半に、「文化と観光」、「平和とコミュニケーション」、「環境と社会」という3つの「視点」から、重点をおいて学びたい視点を一つ選びます。日本人学生は2年生の後期に留学に行きますが、その受入先も、自分の「視点」に合わせて、専門的な勉強ができるように選びます。そして3年生でインターンシップを行い、それまで学んできた理論的な内容を実際の社会

で試します。いうまでもなく、2020年度、2021年度の留学とインターンシップは新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、オンライン留学などで済まざるを得なかった学生が多くいます。

インターンシップについては、広島大学と連携している企業や、全学・学部同窓会の皆様に大変お世話になりました。創立当時、海外でのインターンシップも想像していましたが、広島県内に国際的な発想を持ち、事業を展開している企業や組織が多く存在することが分かり、ほとんどの学生がIGSと合意をいただいた県内の企業や組織でインターンシップを実施しました。インターンシップから卒業論文のテーマを見つけ、また、インターンシップ先や、同じ業種に就職する予定の学生もいます。

2022年3月に、IGSから最初の卒業生が出ます。学生の中には、両親が広島大学で学んだ学生、兄弟で入学した学生もいます。海外に広報するときも、広島大学を卒業した留学生の情報提供と口コミが不可欠です。卒業したIGSの学生には是非、広島大学と総合科学部との関係を維持してほしいと思っています。そのために、同窓会の皆様へのお願いですが、1年生のガイダンスから卒業まで、同窓会については是非、英語でも情報を与えていただくように、お願いいたします。総合科学部が国際展開し、成功を挙げていますので、同窓会も、そのような新しい展開をお願いできれば幸いです。

## 多分野、多忙?! が魅力

総合科学部国際共創学科（IGS）4年の野村ミカエル介です。

私たちはさまざまな国や文化のバックグラウンドを持ち、お互いの違いを尊重しあいながら3年半を過ごしました。現代社会の問題はさまざまな分野や視点から解決しないといけないので、IGS生として、さまざまな分野の授業を受け、視野を広げることができました。私はフィリピンの高校では理系を専攻しておりましたが、IGSで自分の興味についてexplore（探検）する機会をたくさん経験して、最終的に関心が教育に変わりました。IGSグローバルインターンシップでは自由度が高く、自分で探したインターン先に行くことができ、日本では珍しい教育制度をとっているインターナショナルスクールで実習しました。このインターンがきっかけで私は学校を作るという夢を持ち、大学院で教育についてもっと専門的に学びたいと思いました。色んな分野があるからこそできる学び、これが総合科学部の魅力だと強く感じています。

もちろん、学業以外にも多くの機会が与えられています。私はIGSの教授を通して、広島平和記念公園の英語ボランティアガイドや、宮島で日系人の居場所づくりなどの活動に関わることができています。また、東広島にい

## 野村 ミカエル介（4年）

る在留外国人をサポートする学生団体も立ち上げることができました。他のIGSの学生もさまざまな活動を行っています。畑をしている学生、島で寺子屋をしている学生、国際理解を深める授業を提供している学生など、面白い活動をする学生がたくさんいます。よく他学部の友達と言うジョークに、「IGSは、Iso Gashi Syndrome」というのがあります。とても忙しいですが、やりたいことができ、IGSはそれを全力で応援してくれる学科だと思っています。



広島平和記念公園での英語ボランティアガイド(ユースピースボランティア)

## 寄付金報告

2021年3月末までに「ひろだいそうか基金」および「50周年記念事業」にいただきましたご寄付について下記のとおりご報告いたします。皆様からの温かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

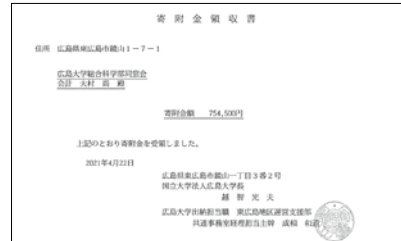
ひろだいそうか基金 98件 754,500円  
50周年記念事業 80件 432,600円

「ひろだいそうか基金」へのご寄付分につきましては大学で管理するため、4月に「広島大学基金」へ送金し、写真のような記念品(ペーパーウエイト)をいただきました。本基金の用途につきましては総合科学部学部長・執行部が今後決定し、様々な学部事業・学生支援に役立てられます。

「50周年記念事業」へのご寄付分につきましては同窓会で管理し、2024年に開催予定の「(仮称)総合科学部50周年記

念大会」の事業費として活用を計画しています。詳細につきましては後日提案させていただきます。

引き続き「ひろだいそうか基金」「50周年記念事業」へのご理解・ご支援をどうぞよろしくお願いたします。なお、寄付に際して税制上の優遇措置を受けたいと考えられている方は、「広島大学基金」へのご寄付をご検討ください(<https://www.hiroshima-u.ac.jp/yakudou>)。



### 同窓会会員の皆様へのお願い

関矢学部長からのご紹介にもありましたように、学生活動を支援する「ひろだいそうか基金」は、着実に成果をあげている様です。同窓の皆様には是非とも、引き続きご支援を賜ればと存じます。

どうぞ、宜しくお願いたします。

広島大学総合科学部同窓会 会長 前延 国治

## 総合科学部同窓会2020年度決算報告書

収入		支出		2020年度収支決算について
前年度繰越金	3,806,369	事務人件費	13,000	2020年度収支決算について 監査した結果、適正に処理 されていることを報告いた します。 監査委員 宝官浩之 令和3年4月10日
利子	35	会費等振込手数料	1,420	
2020年度年会費・入会費	1,349,006	郵送費(同窓会便り・総会案内状)	379,655	
		印刷費(同窓会便り・会費振込用紙)	535,596	
		卒業記念品	319,000	
		その他(年会費誤入金分返却)	4,500	
		次年度繰越金	3,902,239	
計	5,155,410	合計	5,155,410	

## 同窓会の理事となりました

中家さおり (1991年入学・地域文化コース)

総合科学部卒業後に広島大学の職員となり、今は基金室で働いています。どうぞよろしくお願いたします。

基金室では、2024年の創立75周年に向けた周年事業基金の募集活動や同窓生とのネットワーク作りを行っています。同年に総合科学部も50周年を迎えますので、3年後のダブル周年事業に向けて、同窓生間の交流・募金活動を広げていきたいと思います。皆さま、ぜひご協力ください！

昨年は、同窓会を通じて多くのご寄付をいただきありがとうございました。ご寄付の一部は、生活に困窮する学生

への給付金や、海外留学する学生への支援金などに活用しています。今年10月には、大学生協と協力して50円で朝食を提供するプロジェクトを実施しました。毎朝8時前には生協前が長蛇の列となり、学生の早起きにも貢献できて嬉しかったです。皆さまからの応援の気持ちを、学生支援プロジェクト等を通じて実現できるのは、大学職員の仕事の魅力でもあります。今年も同窓会から寄付の呼び掛けがありますので、ぜひご検討ください。

### 寄付の説明補足について

一点ご注意ください。昨年同様、同窓会を通じた寄付の場合は、個人宛に大学発行の領収書が発行されません。寄付による税制上の優遇措置を希望されるなど大学発行の領収書が必要な方は、以下URLから直接基金へご寄付ください。

基金室(ひろだいそうか基金) URL: [https://www.hiroshima-u.ac.jp/yakudou/kikin\\_souka](https://www.hiroshima-u.ac.jp/yakudou/kikin_souka)

※基金の種類は「ひろだいそうか基金」をご選択ください。

※手続きで不明な点があれば、広島大学基金室へお問い合わせください。 E-mail: [kikin@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:kikin@office.hiroshima-u.ac.jp)  
Tel: 082-424-6132

## 自由な卒論、挑戦を学んだ総科——堀川恵子さん、後輩と語る

ノンフィクション作家の堀川恵子さん（1988年入学、外国語コース）が、11月6日の広島大学ホームカミングデー行事に訪れ、キャンパス内で後輩の現役総科生と懇談。自身の学生時代の経験を交えて「失敗を恐れず挑戦を」などとアドバイスしました。

堀川さんは、「飛翔」元編集員の3年生、犬田悠斗さん（人間探究領域）と黒木渉さん（社会探究領域）の質問に答える形で懇談。「卒論はインタビュー中心の異例な形にまとめたが、指導のゴールズベリ先生が自由にやらせてくれた」「仲の良い男女3人の友人との付き合いが精神的な支えになった」などと振り返り、外国人をガイドする活動など社会と接点を持った体験がプラスになったことも披露しました。

2人が将来設計の考え方を質問すると、堀川さんは「私も海外勤務を夢見て放送局に入社したがかなわなかった。作家になろうとは思ってもみなかった。その時その時を全力で生きれば、道はまっすぐでなくてもいい。卒業して職に就くと失敗は許されにくい。学生時代は何ごとにも挑戦できる時。失敗しながら身をもって学べばいい。しっかり遊んでしっかり学べ」と元気づけました。

堀川さんはこの日、ホームカミングデーのメイン行事で「広島で学んだ戦争と平和」と題して講演。身振り手振りを交えた人をそらさぬ話しぶりで、近著「暁の宇品」の執筆動機や取材裏話を紹介し、原爆や歴史を作品テ



マにしてきた思いも訴えました。

大宅壮一ノンフィクション賞や司馬遼太郎賞など多数の受賞歴を持ち、今や日本を代表するノンフィクション作家となった堀川さんですが、古里広島（三原市出身）や母校に対する思いは深いとのこと。行事の合間には、集まった学内外の一人ずつと丁寧に話を交わし、絆を確かめ合っていました。

（※写真は、左から犬田さん、黒木さん、堀川さん）

### ■ノンフィクション作家 堀川恵子

1969年広島県三原市生。高校まで三原で過ごし、88年広島大学総合科学部入学、外国語コース(英語)履修。学生生活の4年間を千田キャンパスで過ごす。92年、広島テレビ放送に女性初の報道記者として入社し、原爆・行政・経済問題など幅広く取材。2004年に独立して東京へ。12年までNHKを中心にテレビドキュメンタリー制作を手掛け、放送ウーマン賞、放送人グランプリ、ギャラクシー賞大賞など受賞。13年以降は執筆に専念。講談社ノンフィクション賞、大宅壮一ノンフィクション賞、司馬遼太郎賞など受賞多数。21年7月、新著『暁の宇品 陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』（講談社）を上梓。

## 一期生の今

### 世間は広いようで狭い

学部の一期生として1974年（昭和49年）広島に足を踏み入れ4年間お世話になりました。そして大阪の毎日放送にUターン就職、43年後の昨年3月末、コロナの蔓延と同時に退職しました。

「さあ今からハネ伸ばそう！」とあれこれ思いをめぐらせていましたがコロナが収束せず奈良県内の自宅でおとなしくしています。今年春は地元・奈良県生駒市の老人大学に申し込んだものの感染拡大で入学を辞退しました。

私は金魚で知られる奈良県大和郡山市の出身です。入学当時を振り返ると、私をはじめ一期生は志望校はバラバラです。“夢破れて”全国から広島の地に偶然にも集まった面々で個性豊かで愉快的な連中ばかりでした。個々のベクトルが広島に向いていなかったためある意味“るつぼ化”せず「新しいミックスサラダ」が作られてヘンな団結力が生まれたような記憶があります。その偶然の広島での4年間のつながりが社会人になってから大いに助けられました。また総合科学部だけでなく広島大学出身の諸氏とも「これをご縁によるしく…」と知り合い、今も公私にわたってお世話になっています。

### 藤谷 昌平（1974年入学・地域文化コース）

地方都市とはいえ広島市内はチンチン電車も走っていてそこそこ都会で学生生活をエンジョイさせてもらいました。入学当時、新幹線は岡山止りでしたが卒業までに博多まで開通し交通の便もよくなりました。最も印象に残っている思い出は、1975年（昭和50年）にカープが初優勝したことです。広島市内は乱痴気騒ぎがしばらく続き、優勝パレードの当日は教官がパレード見物に出かけるため、いくつかの講義が突然「休講」になりました。今では考えられないかもしれませんが、カープの優勝は、広島市民にとっては第一次オイルショックを一時的に忘れさせる大ニュースでした。千田町から流川まで歩いて行くと、酔いが回るくらいあちこちで祝杯のおこぼれにあずかれました。ただ酒に酔いしれてはわかファンになり、今もカープ愛が続いています。

さらに私にとって広島は「原爆の街」として社会の教科書で知ってはいたものの訪れたこともなく未知の土地でした。そんな被爆都市に4年間暮らし、学生時代に片仮名「ヒロシマ」に直に接することができたことは、その後の報道という仕事に自分なりに反映させることができたと感じ



ています。

私は大阪の毎日放送に就職します。ラジオの営業とテレビの編成を合わせて5年経験しましたが、退職するまで入社時の希望通り記者やデスクとしてほとんど報道現場で過ごすことができました。そして定年が近づいた頃、愛媛の系列放送局「あいテレビ」に役員として派遣され、さらに「BPO・放送倫理番組向上機構」に調査役として出向してサラリーマン生活を終えました。

そして今、奈良の南都七大寺のひとつ「西大寺」で週2・3日のバイトをはじめました。寺のお堂で朱印書きや雑用をしています。ワンコの散歩やゴルフ、60過ぎてから始めたサイクリングだけでは暇がつぶれず、昨年末からお寺が加わりました。

社会に出て特に実感したのは「世間は広いようで狭い」ということです。

報道の仕事をしていると多くの人と出会い交流が始まりますがその中でも広島大学絡みのエピソードを紹介します。

入社当時、社内には広大のOBは誰もいませんでしたがしばらくして総合科学部から後輩が相次いで二人入社してきました。うち一人は報道、もう一人は制作で活躍しています。身近にいた報道のO氏は医療と文化財の専門記者として活躍します。その後O氏は番組考査の責任者に就任、BPOから毎日放送制作の番組に放送倫理上の問題があると指摘され私のカウンターパートナーとなるなど腐れ縁？は続きました。さらに私が所属していた放送倫理検証委員会に、広大に2年在籍したものの別の大学に入り直したという某局出身の熱烈カーブ女子が加わり、また総合科学部出身の後輩も某局から出向赴任してきて、仕事では大いに助けられ

ました。偶然の不思議なご縁です。

報道現場では災害時に気象解説で時々出演してくれたM氏も総合科学部出身です。M氏はかつて大阪の気象協会に所属していましたが気象予報士として独立、最近はNHKで頻りに顔を見かけます。分かり易い気象解説にますます磨きがかかり大活躍中です。(温暖化の中、特別講師で彼を招聘してはいかがですか?)

この原稿を依頼してきたH氏も総科の後輩ですが松山の放送局時代に知り合い今に至っています。また広島テレビ出身で広大の理事に就任されたU氏は剣道部の大先輩でこの年になっても逆らえず、この二人の顔が頭をよぎり原稿執筆を受諾しました(笑)

最近では、Go-toキャンペーンを利用して訪れた「しまなみ海道」で広島大学出身のナイスガイと知り合いました。彼は大三島のWAKKAというサイクリスト専用宿でホテルマンとして働きながらトライアスロンのプロを目指しています。卒業後に就職した東雲の附属小学校の教員をやめてチャレンジしているのだそうです。自転車メーカーの日本支社主催のサイクリングツアーでまさか後輩に出会うとは。やはり世間は狭かった。

もうひとつ余談です。昭和から平成に移る頃、京都支局を担当していました。その頃、京大も文科省から京阪奈学研都市への移転を打診され、大学は一丸となって反対していました。結果は、京都市内に残ることになったわけですが、社会学の某教授が取材後の雑談で「大学は都会になかったらあかん!」と主張されていました。「広島大学もそうで!」とも。とても印象に残っています。

先日、我が母校の都心回帰の報に接し思い出しました。

## 近況報告

### 本の魅力 伝え続ける

藤則 幸男 (1976年入学・社会文化コース)

大学受験の際、最初は教員希望で教育学部の受験も考えましたが、新しい総合科学部に魅力を感じ、入学しました。学部の誕生にあたっては、多くの方々の大変なご苦労があったと思いますが、学部としての成果はここで学んだ学生一人一人が築き上げていくしかないのだらうと思います。「総合科学部は何を勉強する学部なのですか?」という質問への説明に、学生各人が自信を持ってちゃんと答えられるようになるのが必要なことでしょう。

卒業後は縁があり書店に就職できました。先輩が他の大手書店で活躍されていたのですが、先輩とは異なる紀伊國屋書店に就職しました。入社後は、5年間岡山営業所で外商部門を担当し、多くの大学教員や図書館員の方々に懇意にいただきました。その後、本社人事部(東京)に異動となりましたが、図書館の機械化が急速に始まり、そのプロジェクトメンバーに加わることになりました。世界最大の図書館ユーティリティである米国OCLCの代理店として洋書データを国内図書館に提供する他、和書データについては、早稲田大学との共同事業を担当し、全国図書館の目録データの普及に努めました。早稲田大学には仕事で長年通いました。皆さんも図書館で在庫検索をされると思いますが、その検索の元になるデータを各大学図書館で構築

していきました。

長年の図書館事業担当を経て、現在は本社管理部門(総務・経理・人事部)と店売総本部長を担当しております。紀伊國屋書店は創業94年、国内68店舗、28営業所、82大学売店、海外店は10ヶ国42店舗に上っており、国内外で書籍・雑誌・データベース等の販売を展開しております。日本のコミックは海外店でも大人気です。

さて、朝の通勤電車では7人掛椅子に座っている内、6人位の方はスマホを見ています。

スマホで何でも便利になり、電子書籍もコミックを中心に普及しており、紙の本を読む人が減っているようです。朝からゲームに夢中になっている人もいます。大学生の半分は1年間で教科書以外は1冊も読まないという学生生活実態調査



報告もあります（コロナで読書時間は幸い増える傾向にはあります）。「科学技術指標」2021年版で「注目度の高い論文」は研究レベルを判断する一つの目安とされていますが、日本は20年前で世界4位、10年前は5位でしたが、今回は10位まで後退しました（1位は中国で米国も2位に転落）。わが国の教育、研究レベルが落ちてきていることが心配です。DX化が声高に叫ばれ、デジタル庁も新設され、大学はコロナ禍によりオンライン授業、小中高はGIGAスクール構想の波で電子化に囲まれた生活にどっぷりとつかってしまいました。

検索すれば必要な情報が直ぐに手に入り（正確かどうかは不明）、自身で深く考え、物を書く機会も減る傾向にあり

## 東広島市の10年

私たちは、平成19年度、20年度に総合科学部へそれぞれ入学しました。総科にいたときには交わることのなかった私たちですが、平成24年度に同期として東広島市役所へ入庁し、早いもので今年度入庁10年目となります。どちらも出身は東広島市ではありませんが、気が付けば、そろそろ地元で過ごした年月と変わらない時間をここで過ごしていることとなります。

同様に、東広島市の10年の移り変わりも見てきました。まず、私たちのいる東広島市役所庁舎は10階建ての建物へ生まれ変わりました。その後、東広島芸術文化ホール「くらら」の建設、八本松町にあった市立美術館の移転、西条駅前のホテル建設や飲食店の出店など、西条駅を降りたときの風景は見覚えのあるものではなくなっていることと思います。

大学周りの風景もちょっとずつ変わっています。部活の（無茶苦茶な）打ち上げが行われたあの居酒屋や学校帰りに寄ったあのレンタルビデオ屋、選ばれし者しかバイトできないと噂のあのカフェはなくなってしまいましたが、全て新たなお店に変わっています。

そんな中、平成30年7月豪雨では甚大な被害を受け、ブルーバールも土砂崩れにより一時通行ができなくなりました。今では復旧も大分進みましたが、慣れ親しんだ場所の風景が一夜にして変わってしまったことの衝撃、スーパーに食料がなく立ち尽くす広大生の姿は忘れられません。その一方で、大変な状況下でも、災害対応時には多くの学生がアルバイトに従事してくれました。また、現在のコロナ禍においても、ワクチン接種やPCR検査にかかる業務に携わってくれています。災害時に限らず、酒まつりや地域活動など

## 議員向き？ 総科生続々

前号（2020年12月）に広島県府中町議として近況報告し、「総科卒業生で議員になったのは私が初めてのようです」と書いたところ、「他にも」という情報が相次いで寄せられました。次の3人の方です。勝川さんは私も在学中からよく知っている勉強熱心な1年後輩でした。田中裕子さんは6期目のベテラン。山下さんはタップダンサーとしても活躍しておられます。みなさんの奮闘ぶりを同窓会役員でありながら知らず、申し訳ありません。さっそく3人とフェイスブック友達になりました。

ます。本をしっかり読んで自分の頭で思考を巡らせ、自分で書いて人に伝えるという紙をベースにした学習・思考方法は大事だと思います。

残念ながら書店は年々減る傾向にあります。書店は新たな本と出会い、地元の人々の生活に密着した場所として必要不可欠なものです。これからも書店はなくならないようにせねばなりません。自分が読んでよかったと思う本は、是非身近な友達に紹介してあげてください。若い人にも本のある生活が日常的であるようにしなければなりません。総科生としてこれからも本の魅力を多くの人に届けていきたいと思っています。

宮永 麻美（2007年入学） 長田実沙子（2008年入学）

で積極的に東広島市と関わる広大生がたくさんいることを知り、学生時代の自分を振り返ると、本当に頭が下がります。

広大生に入学年次を聞いて、元気よく「01（ゼロイチ）です！」と言われたときには気が遠くなりますが、そんな彼らが少しでも関わりたいと思ってくれるまちづくり、何年先でも気軽に戻ってこられる魅力あるまちづくりを、我が総合科学部同窓会会長である前延副市長のもと、これからも進めてまいります。

この10年でたくさんの変化があった東広島市ですが、変わらないものもたくさんあります。皆さんの学生生活で、一番の思い出となった場所やお店はどこでしょうか？これをきっかけにちょっと思い出してもらい、懐かしんでいただければ幸いです。そして、このコロナ禍が収束したら、どうぞ遊びにいらしてください。お待ちしております。



田中 伸武（1977年入学・社会文化コース）

勝川志保子さん。1978年入学・社会文化コース。  
2017年4月から静岡県掛川市議

田中 裕子さん。1993年入学・物質生命科学コース。  
1999年4月から大阪府八尾市議

山下 純さん。2001年入学・情報行動科学プログラム。  
2019年4月から北海道喜茂別町議

## 2024年は総合科学部創立50周年 畑尾 武海 (1979年入学・社会文化コース)

昨年「同窓会だより」から、2024年の総合科学部創立50周年についてお伝えしていますが、記念事業は具体的に何も決まっておられません。

今年同窓会理事会では同窓会記念大会に向けて、各学年度の幹事を募ったり、発起人会を発足させる等の意見が出されました。

創立40周年の際は、学部の記念式典と同窓会大会を広島市内のホテルで一緒に開催しましたが、30、35周年は別々に行っており、これからの検討課題です。

ちなみに、工学部は昨年、ルーツの広島工業高等学校創立から100周年で、工学同窓会として1,000万円を寄付。学部事業として、工学部の現役学生、同窓生、教職員のOB・OGからデザインを公募し記念オブ

ジェを製作・設置。また、工学部OBのアンガールズ田中卓志さんが出演するRCCのTV番組「元就。」の外伝として、オール広島大学ロケの特別番組を制作・放送したり、中国新聞に全頁の企画広告を出稿しました。

総合科学部でも同窓会と学部が連携し、総合科学部らしい記念事業を実施したいと思っていますので、是非、皆様のアイディアと寄付をお願いします。

1993年、創立19年の年に総合科学部は東広島に移転しています。と言うことは、千田町を知らない同窓生の方が多い。だからこそ、創立の原動力となった今堀初代学部長の熱い思いや、当時の熱気が感じられる事業を行いたいですね。

## お知らせ

### 同窓会のホームページ

総合科学部同窓会ホームページでは、新着情報、同窓会からのお知らせ、「同窓会だより」のバックナンバー等をいつでも見ることができます。また、住所等の変更もここでできますし、卒業生間の親睦を深めるための「卒業生伝言板」もあります。

皆様ご利用ください。ご意見、ご希望もお寄せください。

### 広島大学基金のご案内

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/kifu>

### 総合科学部同窓会

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/soukaoba>

### 同窓会費納入のお願い

我々の同窓会は皆様からの年会費で運営されており、同窓会の活動をご理解いただき、本年度の会費の振込を何卒お願い申し上げます。会費振込には、同封のコンビニ振込用紙をご利用ください。

会費は、2,000円に値下げしておりますが、昨年からの皆様の利便性を高めるため、コンビニ支払いに切り替えておりまして、その関係で発生する手数料等も乗せて300円を加算しておりますので、宜しくお願いいたします。

### 「ひろだいそうか基金」 「総科50周年記念事業」のお願い

振込金額をご自身で決めていただく関係で、郵便局での払込とさせていただきます。各々の金額明細をご記入のうえ、総額を振込んでください。事務局で振り分けて送金、管理いたします。

### 住所変更等（名簿の管理）

住所変更等がございましたら、総合科学部同窓会ホームページの名簿変更用フォームよりご送信ください。

#### ●名簿担当

平山 恭之 TEL 082-424-6519

yhiraya@hiroshima-u.ac.jp

### 同窓会の連絡員募集

総合科学部同窓会では、会員の関係を密にし、より活発な活動を行うため、それぞれの卒業年度から2名程度の連絡員を募集しています。やってみたいと思われる方は、同窓会広報担当（下記）までご連絡ください。より充実した同窓会活動ができるよう、会員の皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

●田中伸武 nbtnk@ms10.megaegg.ne.jp

●畑尾武海 TAKEMI.HATAO@hakuodo.co.jp

### 「同窓会だより」原稿募集

皆様からの原稿を募集しています。総科にまつわる話題や近況報告等を是非お知らせください。記事のリクエストも募集しています。また、「世界に羽ばたけ、総科生」と「退職・転出教員からのメッセージ」に取り上げてもらいたい人の募集もしています。自薦、他薦は問いません。「同窓会だより」に関する連絡は下記までお願いします。

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1  
広島大学総合科学部

●東谷誠二 TEL 082-424-6546  
seiji@minerva.ias.hiroshima-u.ac.jp

●宗尻修治 TEL 082-424-6362  
munejiri@hiroshima-u.ac.jp

●山本幹雄 TEL 082-424-4625  
mikioy@hiroshima-u.ac.jp